

# 卒 業 論 文

## 知能情報の論文サンプル － 論文構成とスタイルファイルの利用方法 －

2023 年度

九州工業大学情報工学部

知能情報工学科

123C5678

九工大 太郎

指導教員：知能 花子 教授

		指導教員	知能 花子 教授
学 生 番 号	123C5678	氏 名	九工大 太郎
論 文 題 目	知能情報の論文サンプル － 論文構成とスタイルファイルの利用方法 －		

## 1 はじめに

この PDF ファイルは、知能情報工学科の卒業論文のサンプルである。以降、提供する LaTeX ファイルを使って論文を作成する方法を説明するが、この PDF ファイルの構成（表紙、概要、論文本体）と見た目に準じたものであれば Word 等を用いて作成してもよい。論文作成にあたっては指導教員の指示を仰ぐこと。

## 2 必要なファイル

概要作成に必要なファイルは、

personal.tex 個人データファイル  
 abst.tex 概要のソースファイル  
 AIabst.cls 概要クラスファイル

である。概要作成時には abst.tex をコンパイルすればよい。

論文本体作成に必要なファイルは、

personal.tex 個人データファイル  
 main.tex 本体のソースファイル  
 abst.pdf 概要の PDF ファイル  
 AIcover.sty 表紙類スタイルファイル  
 AIthesis.sty 論文本体スタイルファイル

である。論文本体作成時には main.tex をコンパイルすればよい。

学生番号、氏名、論文タイトル、指導教員は

personal.tex

を編集して記入する。概要ならびに論文本体は、

abst.tex  
 main.tex

を編集すれば作成できる<sup>1</sup>。なお、表題が 2 行にまたがるときに好みの位置で改行するには、personal.tex の題目の改行位置に \\ を挿入すること。

## 3 注意する点

本スタイルファイルで注意する点は以下の通りである。

1. 基本的に通常の LaTeX と同じように利用できる。ただし、パッケージは最低限のものしか入っていないので、必要に応じて自身で abst.tex へ追加する。
2. 見出しは section と subsection しか使えない。
3. baselineskip は変更しないこと。
4. 参考文献を加える方法は、通常通りである。例えば、LaTeX の参考書には [1, 2] がある。

## 参考文献

- [1] 野寺隆志, 楽々LATEX (第 2 版), 共立出版, 1994.
- [2] 奥村晴彦, 黒木裕介, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> 美文書作成入門 第 7 版, 技術評論社, 2017.

<sup>1</sup>論文本体をコンパイルするときに、先にコンパイルして出力された概要の PDF を読み込み使用する。もし、main.tex をコンパイルして abst.pdf が見つからずエラーとなる場合は、先に abst.tex をコンパイルしてダミーの概要ページを作成する。

# 目 次

第1章	はじめに	1
1.1	論文の書式	1
1.1.1	使用言語	1
1.1.2	ページのレイアウト	1
1.1.3	文字の大きさ	1

# 第1章 はじめに

ここに「はじめに」を書く。

## 1.1 論文の書式

論文は、A4 版の PDF データで提出する。LaTeX で作成する場合は、このサンプル PDF を作成するのに用いた TeX ファイルを編集し作成するとよい。LaTeX の参考書には [1, 2] がある。この PDF ファイルの構成（表紙，概要，論文本体）と見た目に準じたものであれば Word 等を用いて作成してもよい。論文作成にあたっては指導教員の指示を仰ぐこと。

### 1.1.1 使用言語

論文を記述するのに使用する言語は、日本語または英語とする。

### 1.1.2 ページのレイアウト

製本その他読みやすさ等を考慮して、マージンは大きめにとること。以下は最低値の目安である。

上マージン	25mm 程度
下マージン	30mm 程度 (ページ番号はマージン内)
左マージン	25mm 程度
右マージン	25mm 程度

### 1.1.3 文字の大きさ

読みやすさ等を考慮して、極端に小さい文字や大きな文字はさけ、行間は十分にあけること。文字サイズ 11-12pt, 1 ページ 30 行で日本語の場合は 1 行あたり 40 文字程度が目安となる。

# 謝辞

ここに謝辞を書く．お世話になった人，物，サービス，組織に感謝を述べる．

## 参考文献

- [1] 野寺隆志, 楽々LATEX (第2版), 共立出版, 1994.
- [2] 奥村晴彦, 黒木裕介, L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2<sub>ε</sub> 美文書作成入門 第7版, 技術評論社, 2017.

# 付録

付録があればここに書く.